



平成29年5月17日
海上保安庁

GW安全推進活動期間の事故発生状況（速報値）
（4月29日～5月7日までの9日間）

～船舶事故が例年より増加～

- プレジャーボート等の船舶事故隻数：70隻（過去平均66隻）
死者・行方不明者数：0人（過去平均1人）
 - プレジャーボートの事故が69隻、遊漁船の事故が1隻
 - 事故の種類別では、乗揚が16隻で最も多く過去平均に比べ8隻増加、次いで荒天難航が12隻で同じく9隻増加
 - 例年多く発生する機関故障は9隻で過去平均に比べ5隻減少

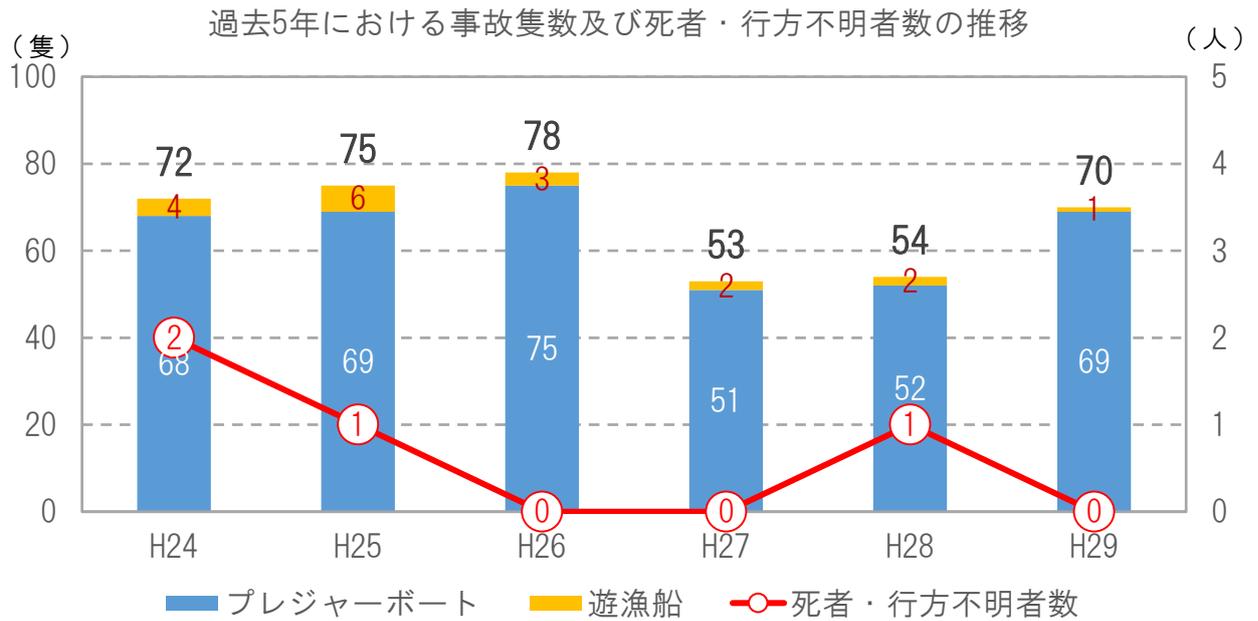
 - マリンレジャー活動に伴う人身事故者数：40人（過去平均41人）
死者・行方不明者数：8人（過去平均13人）
 - 事故の活動内容別では、釣り中の事故が最も多く全体の約3割
 - カイトサーフィンとスタンドアップパドル中の事故が増加
 - 釣り中の海中転落事故者10人のうち救命胴衣着用者は4名
- ※過去平均は過去5年間（H24～28）の平均

【参考】GW安全推進活動期間における事故の推移

		平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年	過去平均	平成29年
安全推進活動期間		4/28～5/6 (9日間)	4/27～5/6 (10日間)	4/26～5/6 (11日間)	4/29～5/6 (8日間)	4/29～5/8 (10日間)	H24～H28 (9.6日間)	4/29～5/7 (9日間)
船舶事故	プレジャーボート等の事故隻数(隻)	72	75	78	53	54	66	70
	死者行方不明者数(人)	2	1	0	0	1	1	0
人身事故	マリンレジャー活動に伴う事故者数(人)	23	40	64	30	41	40	41
	死者行方不明者数(人)	10	15	21	11	7	13	8

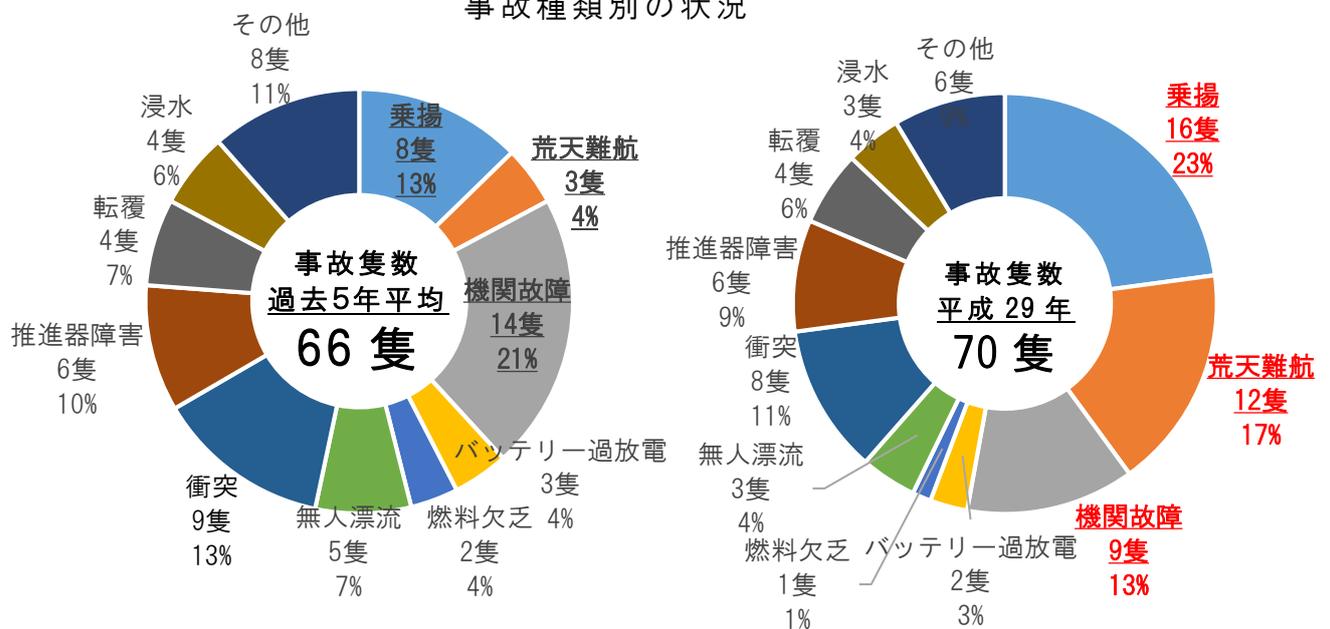
- ・「プレジャーボート等」とは、プレジャーボート（モーターボート、ヨット、水上バイク等）及び遊漁船をいいます。
- ・「マリンレジャー活動」とは、海水浴、釣り、潮干狩り、サーフィン、ボードセーリング、スキューバダイビング、バナナボート、ウェイクボード等の海浜における余暇活動をいいます。
- ・「船舶事故」とは、衝突、乗揚、転覆、浸水、爆発、火災、行方不明及び機関、推進器、舵等の損傷又は故障及びその他安全な運航が阻害された事態をいいます。
- ・「人身事故」とは、船舶事故によらないプレジャーボート等乗船中の事故及びマリンレジャー活動に伴う海浜事故をいいます。

船舶事故の傾向



○平成29年における事故隻数は昨年に比べ16隻増加（過去5年平均では4隻増加）
 ○プレジャーボートの事故が69隻、遊漁船の事故が1隻

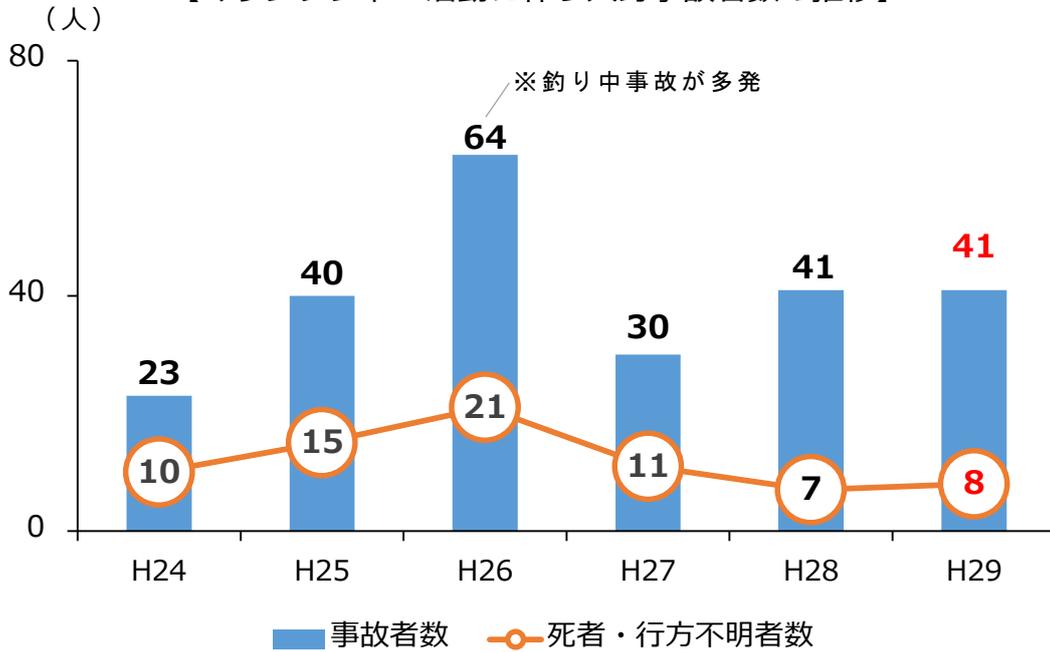
事故種類別の状況



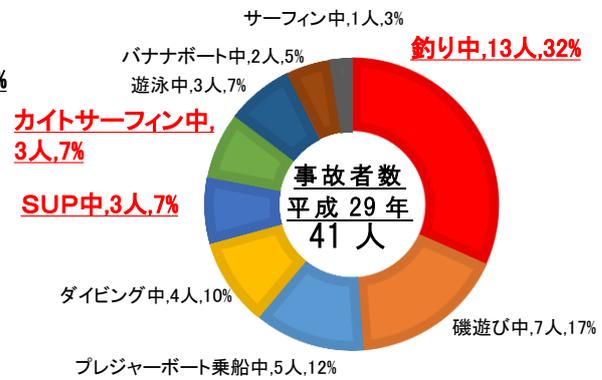
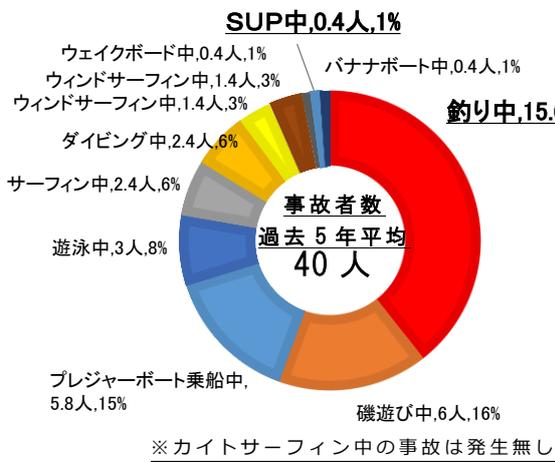
○過去平均に比べ乗揚が8隻、荒天難航が9隻それぞれ増加、機関故障は5隻減少
 ※平成29年における荒天難航12隻のうち10隻は4月29日発生の高校ヨット部のディンギーヨット集団海難

マリレジャー活動に伴う人身事故の傾向

【マリレジャー活動に伴う人身事故者数の推移】



【活動内容別事故発生状況】



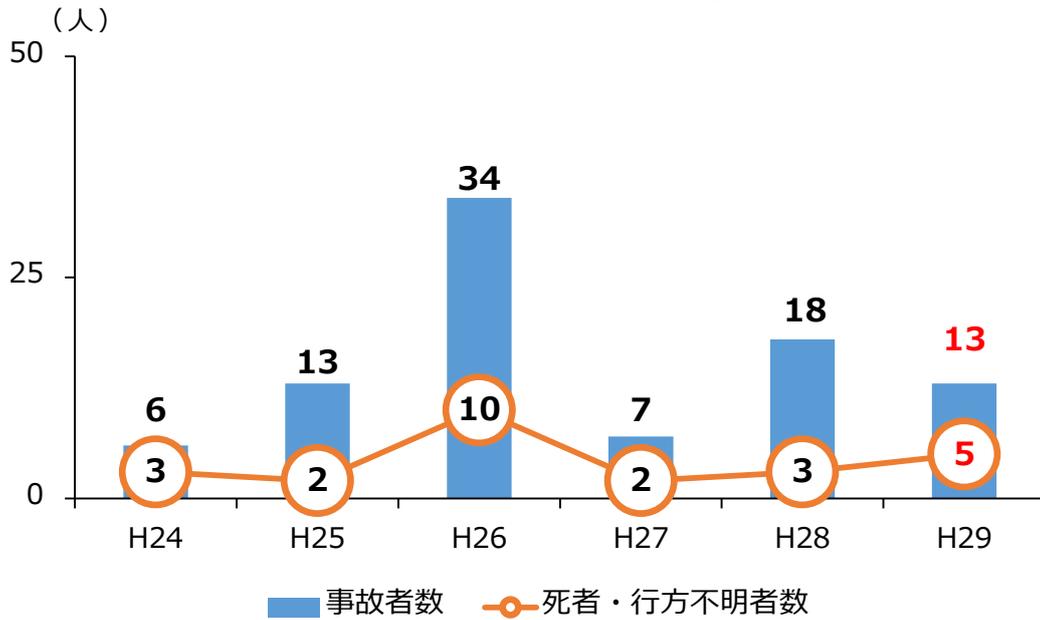
SUP (スタンドアップパドル)



カイトサーフィン

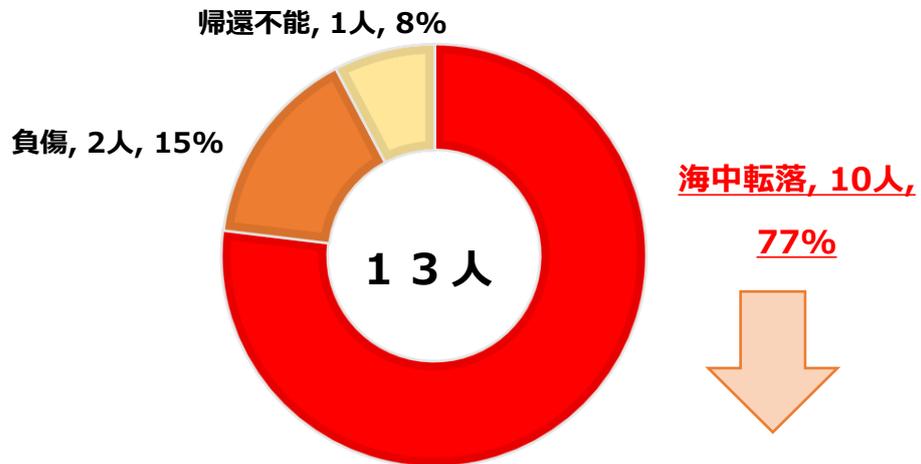
- 釣り中の事故が最も多く、全体の約3割
- カイトサーフィン・SUP (スタンドアップパドル) 中事故が増加

【釣り中の事故者数の推移】

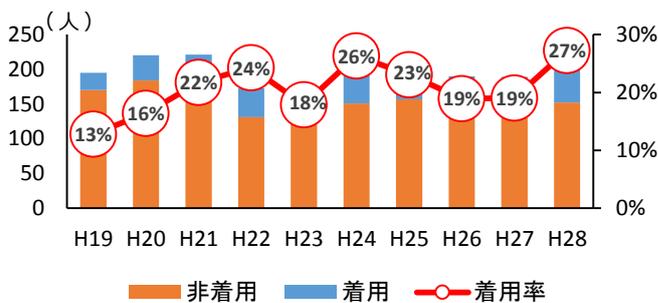


○ 平成29年における釣り中事故13人のうち死者は5人で、全体の約4割（全て海中転落）

【平成29年 釣り中の事故内容別発生状況】



【釣り中海中転落事故救命胴衣着用状況の推移(通年)】



【平成29年 釣り中事故 救命胴衣着用別発生状況】



○ 平成29年における釣り中の事故13人のうち、海中転落事故が最も多く10人で、全体の約8割

○ 海中転落者10人中4人が救命胴衣着用